

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休館措置のため開催は延期します

写真サークルの会員が日頃の研鑽の成果を問うべく腕を振るった力作を展示します。

博物館友の会 写真サークル

春季写真展



2020

会期 ~~3/10(火) ▶ 6/14(日)~~

10:00-16:00 休館日:土・日・祝日 ※6/13(土)・14(日)は臨時開館

会場

名古屋大学博物館
野外観察園セミナーハウス2階

~~3/14(土)10:00-12:00 ギャラリートーク開催(友の会会員限定)
写真展会場内にて、写真サークルの会員がみずから出展作品について解説します。~~

~~6/14(日)13:00-15:00 写真サークル会員による解説をします。
(入退場自由)どなたでもご参加できます。~~

お問い合わせ

名古屋大学博物館 〒464-8601 名古屋市中種区不老町
Tel:052-789-5767 Fax:052-789-5896 HP:www.num.nagoya-u.ac.jp/

入場無料



地下鉄名城線名古屋大学駅1番出口徒歩8分



湖北の夕映え 五十川 修

撮影日；2019年12月10日 撮影地：滋賀県長浜市(琵琶湖)

美しいことで知られるこの地の夕陽ですが、期待して出かけても条件が整わず、裏切られることもしばしばあります。撮影当日は、願ってもない力強い夕陽が見られました。対岸の箱館山に沈む直前を捉えるべく夢中でシャッターを切っていたところ、罫へ向かうのか2羽のヒシクイが空を横切りました。思いのほか、よいアクセントになってくれました。



森の王者 五十川 修

撮影日：2019年12月29日 撮影地：滋賀県米原市小泉

クマタカは、森林生態系の頂点に君臨する猛禽類で、日本各地に留鳥として広く生息しています。しかし、実際には姿を見ついたり捕食場面に出くわしたりすることはなかなかありません。当日は、ぜひ勇姿を“逆ハンティング”したいものだとして朝から伊吹の森の中に入りカメラを構えていたところ、ようやく上空を飛翔する場面に遭遇することができました。



蓮華畑で母衣打ち 五十川 修

撮影日：2019年4月8日 撮影地：岐阜県不破郡垂井町

昨今めっきり少なくなった蓮華畑。この貴重なピンクの絨毯に、国鳥と言われるキジの姿はよく似あうのではないかと度々足を運びました。ようやく恋の季節に、さかんに母衣打ちをする雄を見つけ、シャッターを押しました。これは、連写した何枚かのうち、羽を大きく広げた瞬間を捉えた一枚です。



古刹の大樹 五十川 眞知子

撮影日：2019年12月25日 撮影地：滋賀県彦根市(龍潭寺)

龍潭寺は、約400年前に昊天禅師により開山された名刹です。枯山水の庭とだるま寺として有名ですが、私は木の老木に目を奪われました。この大樹の表情を間近に撮影できる場所は、本堂から庭を望む廊下の端の一部のみでした。カメラアングルを少しずつ変え、不必要なものが映り込まないように苦心しながら撮りました。



初雪の時季 五十川 眞知子

撮影日：2019年12月8日 撮影地：岐阜県揖斐郡揖斐川町

能郷白山の初雪の情報を得、雪と紅葉を一緒に収められるのではないかと思い、出かけました。うっすらと雪化粧した山と紅葉の名残が、冬を迎える徳山湖の静けさをより深めていました。撮影時には、斜めの光が差し込み、その陰影が風景に変化をもたらしてくれました。なお、この翌日には徳山湖に続く道は通行止めになりました。



暮秋 五十川 眞知子

撮影日：2019年11月4日 撮影地：岐阜県揖斐郡揖斐川町
徳山湖周辺でよい撮影ポイントを探していたところ、林道からゴツゴツとした山肌を見せる冠山と裾野に広がる紅葉が目に入りました。冠山の特徴的な烏帽子の形がきれいに取り込める所まで移動しました。林道から眼下には、落葉したブナの白、ナナカマドの鮮やかなオレンジ色、様々な広葉樹の微妙な彩が広がり、秋の深まりを感じさせてくれました。



う～ん、なかなか取れないなあ～ 市枝 真木子

2017年11月に撮影したシャバーニです。この日は奥歯に何か物が挟まっていたようで、何度も何度も太い指を口の中に入れようとしていました。人間なら爪楊枝を使いますが、無い時は思わず指を突っ込みたくなりますよね！ シャバーニもそんな様子でした。ただ、鋭い牙が覗いているところが人間との違いでしょうか・・・。



真剣な眼差し

・・・臉譜(れんぷ)

市枝 真木子

2018年3月、初めてツアーで北京を訪れ京劇等のショーを鑑賞しました。ショーの前にあった化粧、隈取り（臉譜）を実演しているところをコンパクトデジカメで撮りましたが、鏡に向かって真剣に描いてる様子が伝わってきます。最後に立派な衣裳を身に着けて、お披露目もしてくれました（上の写真）。あとで調べたところ、彼は悲劇の霸王（項羽）で、模様は眉根を寄せ苦悶と悲憤を表現していることがわかりました。



ビルの谷間に巨大 かぼちゃ？！

市枝 真木子

2017年4月、国立新美術館で開催されていた草間彌生さんの作品を見に東京まで行って来ました。野外展示場に置かれた巨大カボチャにはびっくり！！瀬戸内海の直島にある草間さんの赤・黄色カボチャは有名ですが、ビル群に出現したカボチャもなかなかユーモラスで素敵じゃありませんか？よくよく見るとカボチャの水玉窓からカメラ撮影者が！！ひょっとして私が撮影している様子があちらのカメラにも写っているかも！？



春宴 梅原 誠人

撮影場所は名古屋市市政資料館です。名古屋市内でも桜を楽しめる場所が多いのですが、ここ市政資料館は大きな通りに面していないため意外と静かに花見を楽しめる場所です。名城公園にもほど近く、メジロなど野鳥が蜜を吸いに集まってくるようです。当日も満開の桜の樹の中を多くのメジロが枝から枝に飛び回り、それはまるで春への感謝を込めた宴のようでした。



ほっこりな時間

梅原 誠人

撮影した場所は“木曾路はすべて山の中である。”で始まる島崎藤村の名作『夜明け前』の舞台となった妻籠宿で、今もそこに残る脇本陣奥谷です。1月中旬頃は明かり取りから差し込む日射しが囲炉裏あたりまで届き、立ち昇る煙りで青く美しい斜光となって現れます。撮影当日は生憎の曇りでしたが、時折顔を出す日射しに現れた斜光は何とも言えない風情と心温まる時間が訪れ、思わず撮ることを忘れて見惚れてしまうほどでした。



舞う！ 梅原 誠人

昨年夏、初めて「どまつり」撮影にチャレンジしました。当日も猛暑でしたが、撮影中は各チームのパワー溢れる舞いと満面の笑顔に圧倒されて思わず暑さを忘れたほどです。本作は、演者が暑さをふっ飛ばす位にパワフルにジャンプした瞬間を切り取ったものです。真下にできた影が強烈な日差しを彷彿とさせますが、それ以上に各演者の笑顔や表情が豊かに捉えることができ「どまつり」らしい写真が撮れたと思っています。



広大な空間 谷口 奈菜子

奈良国立博物館の近くに依水園という「前園」と「後園」からなる美しい築山式池泉回遊式庭園があります。「前園」に続く細い石畳の路地を通り抜けると、突然、この写真のような広大な空間「後園」が目に飛び込んできます。はるか遠くには東大寺南大門・若草山・春日奥山・御蓋山が見えます。それらとともに空や新緑の樹々、池を贅沢に取り込んだ「後園」は見ているだけで、心が和みます。2019/5/19撮影



初春を告げる花の兄 谷口 奈菜子

名古屋市農業センターの梅まつりに出かけました。約700本にもものぼる紅梅・白梅のしだれ梅がいっぱいに広がる梅園は、しだれ梅が咲き誇る梅の名所です。あたり一帯がうっとりとするような梅の香りで満たされます。竹林の隙間から見える紅白のしだれ梅とのコントラストがとてもきれいで、思わずカメラを向けました。四季の花の中で他の花にさきがけて咲くから花の兄という梅。「春が来たよ！」と教えてくれているようです。2019/3/2撮影



春爛漫 谷口 奈菜子

なばなの里の花ひろばです。ソメイヨシノと180万株のチューリップと一緒に楽しめる“美の競演”がすばらしく、大きなスケールに驚かされます。花ひろば全体を大きなキャンバスに見立てて、赤・白・黄色のカラーを中心に大きなウェーブが描くように色鮮やかなチューリップが植えられています。富士山をモチーフにしたイラストの花壇はダイナミックで日本らしい景色に魅了されます。春の花々に出迎えられ、ゆっくりと一周すると春爛漫の幸せな気分になります。2019/4/7撮影



首里城無残 丹慶 勝市

昨年10月31日の未明、首里城が一瞬にして灰燼に帰しました。15世紀頃に創建されて以来、5度目の焼失です。燃え盛る炎を映す生のTV中継画面を北陸の宿でたまたま見た私は我が目を疑いました。それから約1か月半後、実際に悲惨な焼け跡を目の当たりにしたときは、しばらく言葉を失い動けませんでした。

撮影日：2019.12.18／撮影地：那覇市首里城公園／OLYMPUS E-620 60.0mm 1/200 F6.3 EV0.0ISO200



宙に舞う 丹慶 勝市

それは一瞬の出来事でした。単調な演舞が続いているので、ファインダから目を離し一息ついていたところ、3人の男性が組んだ櫓の上に突然、女性が飛び乗りました。これは何かあると思いカメラを構えた瞬間、女性が勢いよくジャンプしたので思わずシャッターを切りました。何年か「どまつり」を撮ってきましたが、このようなアクロバットとの遭遇は初めてです。

撮影日：2019.8.24／撮影地：名古屋市中区／OLYMPUS E-30 60.0mm 1/320 F6.3 EV0.0 ISO200



両手を広げ 丹慶 勝市

昨年の「どまつり」で敢闘賞を受賞した浜松学生連「鰻茶羅」チームです。炎天下にもかかわらず次から次へと繰り返される、エネルギッシュな演舞には圧倒されました。フィナーレの直前、学生達の両手を広げる動きに合わせて、提灯が描かれた後方の幕が左右へと広がり、瞬く間に盆踊り広場のように became.

撮影日：2019.8.24／撮影地：名古屋市中区／OLYMPUS E-30 36.0mm 1/125 F5.0EV0.0 ISO200



心は終着地へ 塚本 啓互

オスのサンコウチョウで、とても長い尾羽が特徴です。夏鳥として本州以南に渡来し、平地から山地の針葉樹林に生息しています。嘴とアイリングが鮮やかなコバルトブルーで愛らしい顔をしています。今回は渡りの途中で2日ほどの滞在で営巣地へ飛んで行きました。非常に細い木に巣を作り、夫婦で交代しながら抱卵や給餌をする習性があります。

撮影条件：552mm 1/60 F6.3 ISO1600 +2.0EV 撮影日：2019年5月13日



子育ては大忙し 塚本 啓互

スズメほどの大きさで、日本最小の小型キツツキ類のコゲラです。留鳥として北海道から西表島まで分布します。山地林から平地林、市街地の公園林にも生息し、都市部の街路樹で見かけることも多いです。4月から5月にかけて低木の幹に巣穴を作り子育てをします。この日も巣穴へ餌を運び、綺麗好きなので排泄物を巣穴から遠い所へ運んでいました。

撮影条件：600mm 1/640 F6.3 ISO3200 +0.7EV 撮影日：2019年5月16日



こっそりと 塚本 啓互

キツツキの仲間のアリスイです。爬虫類のような姿で幹に垂直に止まらず、枝に一般の鳥の様に止まります。アリスイの名前は長い舌でアリを絡め捕る様子が吸っているように見られるからです。夏鳥として北海道、東北地方などで繁殖し、冬季は関東以西のヨシ原などで越冬します。発見した時、背中の模様が蛇柄でちょっとびっくりしました。

撮影条件：600mm 1/1250 F6.3 ISO1600 +0.7EV 撮影日：2019年4月16日



犬山ヒトツバタゴ満開

三矢 保永

犬山に自生している「ヒトツバタゴが満開」との新聞掲載写真に触発されて、撮影に出かけました。混雑を予想していたのですが、平日であったこともあり、見物する人たちはちらほら。たまたま、日傘をさしたカップルが視野に入り、左端によって大樹を指さしたところを、パチリ（モデルさんではありません）。ヒトツバタゴは、最近では街路樹や公園にも移植されて、親しみのある樹木になっていますが、自生地は狭い地域に限られており、絶滅危惧種に指定されているとのこと。撮影日：5月13日



早春の南八ヶ岳連峰 三矢 保永

天狗岳（2646m）は八ヶ岳連峰のほぼ中央に位置し、冬季にも降雪量が少なく、また稜線直下にある黒百合ヒュッテは、通年営業しており、雪山の入門コースとして人気があります。4月中旬とはいえ、登山前日に新雪が30cmも積もったので、踏み跡が消えてしまい、撤退が脳裏をよぎったのですが、ガイドに案内された山ガールさんたちの踏み跡を辿って、登頂することができました。南八つのアルペンの山岳美を目の当たりにして、大満足しました。撮影日：4月16日 フィルム Provia 100F



御射鹿池雪解けの頃 三矢 保永

御射鹿池（みしゃがいけ）は天狗岳登山口に向かう山麓にあり、元々は農業用のため池にすぎなかったものが、吉永小百合さんがCM役として登場する液晶TV「AQUOS」のロケ地として使用され、ここで着想を得たといわれる東山魁夷の名画「緑響く」との合成映像が放映されて、一躍有名になりました。いまや観光バスツアーの立ち寄り地にもなっています。この日は快晴で、空の青が池の表面で反射して、神秘的な色合いになりました。撮影日：4月16日 フィルム Provia 100F



吸蜜

森本 一史

台湾ホトトギスを撮影すべく準備をしていたところ、繰り返し飛来する昆虫に気付きました。後で教えていただいたのですが、ホシハウジャク（星蜂雀）といって、チョウ目スズメガ科の昆虫で、ガの一種だそうです。ホバリングしながら長い口を伸ばして吸蜜する姿は見ていて飽きません。今後は、素早い羽ばたきを止めた撮影も試みる予定です。撮影日：2019.10.26 撮影地：東山植物園



ハス三兄弟

吉野 奈津子

小三色蓮という小型のハスです。
4日ほどの開花期間の間に濃い桃色から白色へと変化していきます。
2019年夏は次々と咲いて楽しませてくれました。つぼみ、開花1日目、2日目と一つの蓮根でつながっている仲良し兄弟です。3つの花の構図取りには苦勞しました。

2019年7月10日

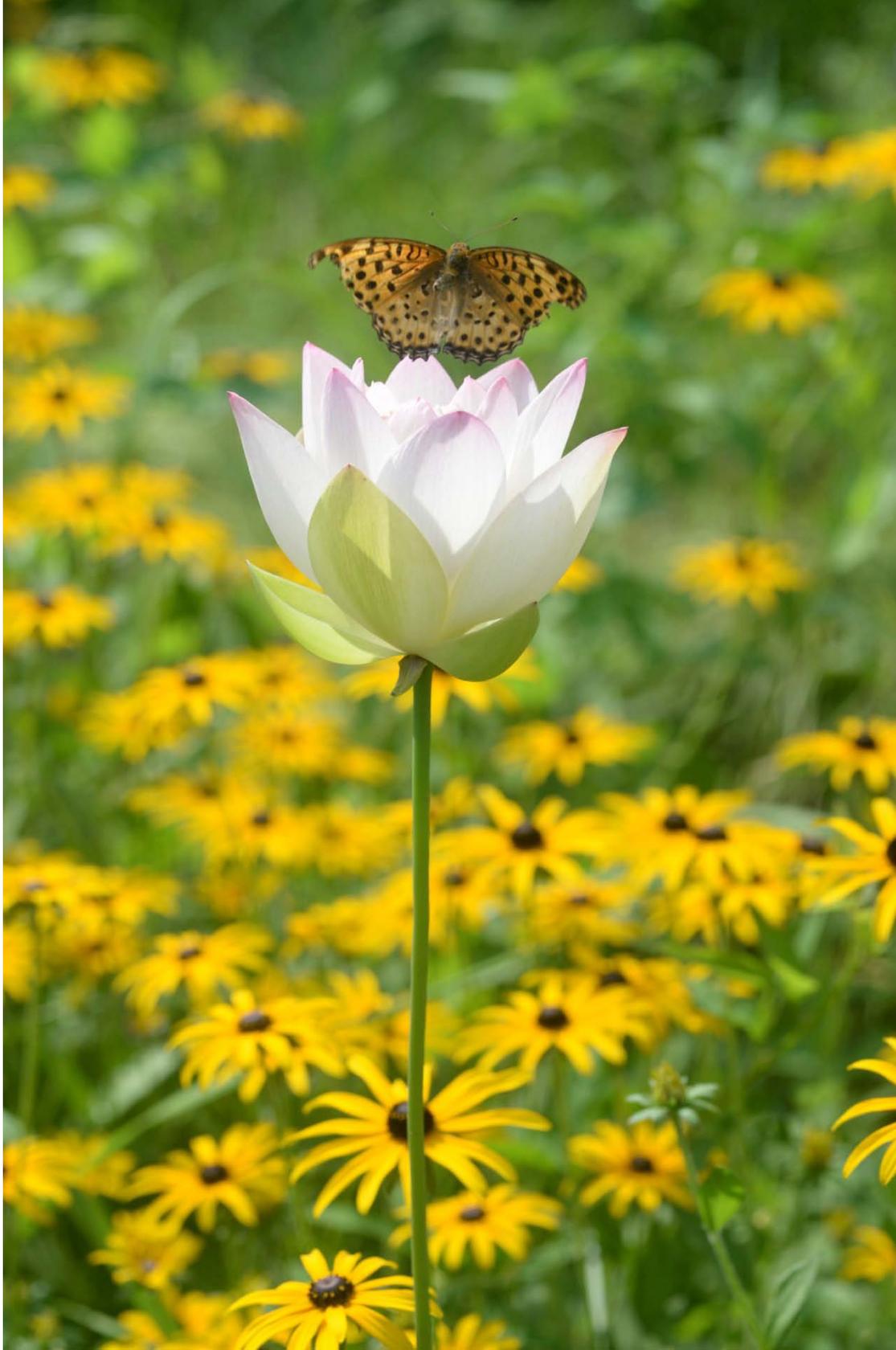
撮影場所 野外観察園



雨上がり 吉野 奈津子

ハス3兄弟の翌日の姿です。雨粒の重みで前日とは全く違う姿となりました。大きく開いているのは前日に開花初日だったもの、後ろで首をかしげているのは前日につぼみだったものです。したたり落ちそうな雫と花びらが鮮明に写るよう工夫しました。

2019年7月11日 撮影場所 野外観察園



明日へ

吉野 奈津子

ツマグロヒョウモンが小三色蓮から飛び立つところをとらえることができました。背景に咲く黄色いアラゲハンゴンソウとツマグロヒョウモンの翅の配色が似ているのも面白く、偶然が重なった1枚です。人生の大海原に飛び込んでいくような、チョウの飛び立ちを応援したい気持ちになります。

2019年7月30日

撮影場所 野外観察園